

## 横浜市立大学と連携したハマスタディ調査結果について

横浜市と横浜市立大学は「データ活用に関する包括連携協定」に基づき、令和4年度から「家庭と子育てに関するコホート研究(ハマスタディ)」に関する協定書を締結し、調査・分析を行いました。本研究は、横浜市立大学学長裁量事業学術的研究推進事業「YCU未来共創プロジェクト」及び横浜市立大学創立100周年記念事業基金「新たな研究創生プロジェクト」に採択され、この度、第1弾の調査結果が取りまとめられましたので、発表します。

調査結果から得られたデータをもとに横浜市立大学と連携し分析を進め、横浜市の子ども・子育て支援施策等への活用を進めてまいります。

### 1 調査結果のポイント

— 子どもが生まれると女性の家事時間が増加、家事時間と well-being には負の相関 —

- ・ **フルタイムで働く妻の平日の家事時間**は子どもがいない家庭で 1.8 時間に対し、**子どもができると 2.2~2.5 時間に増加**。夫は子ども数と家事時間に関連がみられず、妻の家事時間のおよそ半分だった。
- ・ 家事の外部化・自動化を通じて家事時間を削減できる可能性が示唆された。
- ・ **妻の家事時間と Well-being<sup>\*1</sup>には負の相関**がみられた。
- ・ 理想子ども数と実際の子ども数とのギャップはおよそ 0.27~0.36 人少ない傾向だった。

※詳しくは横浜市立大学から発表の記者発表資料（別紙）をご確認ください。

URL : <https://www.yokohama-cu.ac.jp/news/2023/hamastudy.html>

※1 個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念。



### 2 ハマスタディとは

横浜市をはじめとした都市型の少子化の要因を、家庭と子育ての観点から継続的な調査※によって明らかにすること目的としたものです。市内在住の子育て世代から1万世帯を無作為に抽出し、同じ調査票を夫婦それぞれで回答します。

※調査については、令和4~8年度(5年間)にかけて同じ方を対象に年1回調査を行い、暮らしの変化や政策の評価の検証を行う予定です。(第2弾調査:令和5年12月頃)

本研究の結果から、家庭と子育ての現状の把握とともに、横浜市中期計画2022~2025において基本戦略としている「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」の実現に向けて、施策改善に活用していきます。

URL : <https://www.hamastudy.net/>

### 3 参考

#### ○データ活用に関する包括連携協定について

データ活用に関する相互の連携・協力を強化し、「データを重視した政策形成の推進」や「官民データ活用に関する教育及び普及啓発」を効果的に進めるため、横浜市、横浜市立大学でデータ活用に関する包括連携協定を締結しました（平成30年5月22日）。

#### ○家庭と子育てに関するコホート研究（ハマスタディ）に関する協定について

横浜市と横浜市立大学が相互に連携・協力し「家庭と子育てに関するコホート研究（ハマスタディ）」を推進するため、協定を締結しました。（令和4年11月25日）

#### ○全庁的なデータ利活用について

横浜市では、データ利活用をこれまで以上に全庁的な視点で推進するため、令和5年度から政策局にデータ・ストラテジー担当を設置しています。データの分析や見える化などを通じて、データに基づく政策を推進していきます。

お問合せ先
<ul style="list-style-type: none"><li>・「家庭と子育てに関するコホート研究(ハマスタディ)」に関する協定書に関すること こども青少年局企画調整課長 柿沼 千尋 Tel 045-671-4280</li><li>・全庁的なデータ利活用に関すること 政策局政策課データ・ストラテジー担当課長 大山 紘平 Tel 045-671-4799</li></ul>